

『困難にパンチ』 寸評

- ・アクセントをパンチにみたてる着眼点がおもしろい
- ・旋律課題からはなれたあらたな要素の導入として効果がある
- ・平明なひびきと通奏低音がバロック様式をおもわせる
- ・モチーフのくりかえしも弱点になっていない
- ・アイデアとタイトルの勝利

完成度をさらに上げるために

- ・ m.9-12 ベースがやや単調なのでパンチを効かせてみる



m.=measure 小節番号のことです。

その意気やよいです。

持毫 勉